

國學院大學學術情報リポジトリ

〔紹介〕 笹川勲著 『源氏物語の漢詩文表現研究』

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 津島, 昭宏, Tsushima, Akihiro メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000385

紹介

笹川勲著

『源氏物語の漢詩文表現研究』

津島昭宏

書名の通り、本書は『源氏物語』において漢詩文表現がいか
に息づいているかを明らかにしたものである。四篇十四章の論
に、序・結がおかれる構成となっているが、単に典拠としての
漢籍を指摘するにとどまらず、それが物語の主題性といかに関
わるかについて論究している点に特色がある。

『紫式部日記』を参照するまでもなく、物語作者には漢籍の
素養がうかがえ、作中にもそれは色濃く反映している。したがっ
て、『源氏物語』の研究においては、漢詩文との関連を考察す
るものが少なからずある。ただ、作品の源泉たる漢詩文の発掘
に主眼がおかれるあまり、作品に内在する論理と有機的に結び
つかないものも見受けられる。しかし、笹川氏はそうした方法
論的陥穽に自覚的であり、漢詩文表現を介在させることで見え
てくる作品の論理を、鋭く炙り出そうとする。その論理を一言
でまとめらるなら、「政治性」ということにならうか。

本書の基幹となる、第一篇「物語の展開と漢詩文表現―〈漢
才〉を視点として―」を取り上げよう。〈漢才（からぎえ）〉を
身につけるべき漢学・漢詩文の素養であると定義した上で、〈漢
才〉が政治の主題を下支えし、作中人物の栄達を保証するもの
であると説く。至極穏当な、首肯できる指摘である。だが問題
は、作品自体がそうした〈漢才〉を相対化する視座を内包して
いる点であり、本書では夕霧・柏木・八の宮にまつわる〈漢才〉
を検証することで、それを明らかにしている。〈漢才〉を是と
する光源氏の政治性をも揺さぶるものと理解され、実に興味深
い論考である。

逐一紹介することはできないが、第二篇「政治の主題と漢詩
文表現」、第三篇「作中人物の形象と漢詩文表現」は、第一篇
で示した主張を補強する、いわば各論にあたるもの。また、第
四篇「寛弘期の文学と漢詩文表現」は、その時代性から照射し
たもので、本書全体が緊密に連関する構成となっている。

以上のように、『源氏物語』における漢詩文表現の意義を体
系的に見通すことができる点で、本書は今後の研究に大いに寄
与するものとならう。

(A5判、三八四頁、勉誠出版、二〇一七年二月刊行、定価
一〇〇〇〇円＋税)